

仮面ライダービルド—
if, World, Rider

蒼葉 桜木

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

科学都市『森羅』。様々な技術が発展したこの都市に現れる謎の怪人『S・M・A・S・H』。そんな彼らに立ち向かう者がいた。その名も、『仮面ライダービルド』!!今日も彼は仲間とともに怪物たちと戦う。

「さて、実験と行こうじゃないか。」

仮面ライダービルドにオリジナル設定を盛り込み、最早別物と化した二次創作、スタートです!!

目次

プログラグ

1

プロローグ

科学都市『森羅』様々な技術の研究が盛んに行われる日本随一の大都市である。そんな森羅であるが、非科学的な都市伝説が街で暮らす人々の間で広がっていた。

その内容とは、夜遅くに謎の怪人が人々を襲っているということ、そしてそれを倒す存在『仮面ライダー』がいるというものだ。尤も、この存在を信じているものは少なかったが。

後に、彼らはその存在が都市伝説などというモノでは無いということを知ることとなる。

時刻は、午後11時を回ったところ。街明かりが暗闇を煌々と照らし、道を歩く人々が少なくなってくる。そんな中、森羅の街を走る一人の女性がいた。肩から小さな鞆を下げ、右手には小型カメラを持っている。

「ハア……ハア……!!」

息を切らせながらも必死に走り続ける彼女が後ろを振り返ると、一人の、否。人ではない異形の怪物が女性の後を追っていた。

「ハア……嫌……来ないで……!!」

そう言いながら尚も足を止めずに走っていた女性だったが、途中で足が絡まり、転んでしまう。

「キヤア!!」

地面に倒れると同時に鞆の中の小物や持っていたカメラが道へ散乱した。

「……!!」

彼女は急いで落ちた物を拾おうとするが、慌てているせいかもたつき、中々拾えずにいる。そこへ

『、——!!』

怪人がこちらへと歩み寄ってきた。

「ヒッ!!」

後ずさり、何とか逃げ出そうとする女性の髪を怪物は乱暴に掴み、持ち上げる。

「やめて! 離してよ!」

女性の言葉を怪物が聞くはずもなく。その拳が勢いよく彼女目掛けて振り下ろされ

「さて、一撃で決めるよ。」

『!!』

声と表しているのか分からないような声を発しながら突っ込んでくる怪物。

直後、もう一度機械音声が響く。

『R a d y G O!!』

『ボルテックブレイク!!』

「はああああ、セイヤアアアア!!!」

気合と共に突き出されたドリルは怪人の体を貫き、その姿を爆発四散させた。

「私……助かったの……??？」

「そういうことだよ、お嬢さん。それじゃ、また会うことが無いことを祈っているよ。」

そう言うと、片手をヒラヒラさせながら鎧の人物は去っていった。その後ろ姿を見な

がら、彼女は一言呟いた。

「あの人が……仮面……ライダー……??？」